

ニホンウナギ及びニジマス養殖における 重要疾病のリスク管理技術の開発

(予算区分 研究期間 平成31～令和5年度)

担当：水産技術研究所 浜名湖分場 鈴木基生・飯沼紀雄
富士養鱒場 木南竜平・中村永介

【研究の背景とねらい】

- ・ 病気の発生による経済被害が静岡県内の養殖経営に大きな影響を与えています。特にウナギの板状出血病、ニジマスの通称ラッシュは、原因が分かっていないため、診断法がなく伝播経路等も不明なことから、予防対策の立案・実施についても極めて難しい状況にあります。また、ニジマス養殖に常在するIHNは、清浄化が困難な疾病として長年問題となっています。国際獣疫事務局(OIE)では疾病の清浄性担保の概念として、コンパートメンタリゼーション(施設のバイオセキュリティレベルに基づく管理)を示しています。そこで、本研究では、養殖業における重要疾病の診断法を開発または高度化し、防除法を確立するとともに、新たな清浄性管理手法の確立に資する養殖管理技術を開発します。
- ・ (板状出血病) 本症は単独感染だけでなく他の疾病との混合感染を引き起こしやすい被害の大きな疾病です。そこで、疾病の発生した養殖場から病魚をサンプリングし、原因体の特定と診断法を開発を行います。
- ・ (ラッシュ) 原因不明である本疾病に対し、病原体の特定と診断法の開発、対策の提案を行います。
- ・ (IHN) 養鱒場に常在する本疾病について感染要因を把握し、リスク管理を行います。

【期待される効果】

- ・ 不明病の診断法が確立され、原因体の動態を把握できるようになります。
- ・ 新たな清浄性管理手法に基づいた養殖管理技術により、養殖施設等での疾病発生が防止されます。
- ・ 疾病の発生しない養殖施設が増えていくことで、魚の移動に伴う広域的なまん延も防止でき、生産性の向上が図られます。

【年次計画】

小課題名	研究年度					研究内容
	31	R2	R3	R4	R5	
1. ウナギの板状出血病の診断法と防除法の開発	○	○	○	○	○	原因体解明 診断法の開発 防除法開発
2. ニジマスのラッシュの診断法と防除法の開発	○	○	○	○	○	病原体の特定 診断法の開発 対策の提案
3. コンパートメンタリゼーションによるマス類の伝染性造血器壊死症(IHN)の清浄性管理手法の確立に資する養殖管理技術の開発	○	○	○	○	○	感染リスク調査 排除法の開発 コンパートメンタリゼーションによる清浄性管理の検証

(作成 平成31年4月)